

平成28年10月26日

もっと現場を知る！職員短期派遣研修報告書

所属名	西部農林振興センター	氏名	周藤 辰也
派遣先 団体名	特定非営利活動法人 プロジェクトゆうあい		
【研修の日時・研修内容】			
●7月24日(日)9:00～17:45 白潟天満宮夏祭りでの古本市(「天神古本市」)の開催。本の搬入、陳列、販売を行った。			
●7月25日(月)15:00～22:00 スティックビルの空きスペースでカフェを出店。ドリンクの販売を行った。 また、天神祭最終日だったので、本の片付を行った。			
●7月28日(木)9:00～17:45 「放課後等デイサービス事業」として、通所してくる障がい児(小学校低学年から高校生)の療育活動に携わった。午前中は近くの公民館でサンドイッチづくりをし、午後はゆうあい夏祭りの準備、実施。			
●7月29日(金)9:00～17:45 朝礼への参加。旅館へのバリアフリー化相談へ同行。			
●7月30日(土)9:00～17:45 「放課後等デイサービス事業」の療育活動に携わった。一緒に宿題をしたり、農場に出かけ草取りをしたりした。			
●8月30日(火)10:00～15:00 まち歩きバリアフリー情報誌「てくてく日和」の取材に同行。取材場所は出雲大社とその周辺。			
【研修の感想】			
「プロジェクトゆうあい」は、幅広く「ひとづくり」「まちづくり」事業に取り組んでおられます。 私が研修で経験させていただいたことでは、古本事業やバリアフリーのまちづくり・観光地づくりなどがあります。 古本事業は、障がい者就労支援、困難を抱える若者支援として古本事業を通じた仕事の提供を行っておられます。家庭で読まれなくなった本を寄付してもらい、就労訓練として本のクリーニングや書棚への陳列、販売を行っておられます。基本的には1冊100円という手にとりやすい価格で販売され、市内のスーパーなどにも置かれています。 家庭で読まれなくなった本が、就労支援や、「天神古本市」などのまちづくりに利用され、再び誰かの手に渡り読まれるという仕組みは、印象的でした。 また、バリアフリー事業という点では、バリアフリー情報誌の発行や車いすの方などの旅行のお手伝い、バリアフリーを考えておられる施設へのアドバイスなどを行っておられ、研修中にも市内のバリアフリーを考えておられる旅館に同行させていただきました。実際に車いすで生活をされているスタッフの方2名がバリアフリー化を行う部屋に行って、ベッドや浴槽の高さ、どこにスイッチがあると使いやすいかなどのアドバイス			

をされていました。

私たちが車いすの方の立場になって考える使いやすさと、実際に車いすで生活しておられる方の使いやすさは当たり前ですが、差異があり、当事者の声を聞くことは大切だと改めて気づかされました。

ゆうあいでは、いろんな障がいを持った方がおられるのですが、各人がそれぞれの特性を生かして、それぞれのできることを仕事にしておられるというのが私の中では一番印象に残っています。

研修最終日にバリアフリー情報誌の取材に同行させていただきました。この情報誌は、地域や観光地のおすすめスポットやグルメなどを紹介するまち歩き情報誌なのですが、車いすでも入りやすいトイレやスロープの情報など、「ゆうあい」のスタッフだからこそ、当事者だからこそ書ける視点が盛り込まれています。

行政の中では様々な分野の施策やサービスがあり、それぞれについて職員が相手の立場になって進めていくこと（当事者意識を持つこと）は大事なのですが、当事者と全く同じ視点に立つことはできません。だから、こういうところで「協働」というのが必要になってくるのではないかと思います。

いろいろなモノや仕組み、多様な生活が存在する中で、県民のための行政サービスはその幅広いニーズに対応していく必要があります。当事者の方と連携していく・当事者の方が発言できる場や仕組みを積極的に作り出し取り入れていくことが、これからのより良い地域づくりのカギになるように感じましたし、この視点を今後の仕事において大事にしていきたいと思います。

この他にもいろいろと感じたことや学んだこと、気づかされたことは多くありましたが、私がはじめて知った「意外と難しいな～」と思ったことを最後に紹介したいと思います。

バリアフリー情報誌「てくてく日和」の取材に同行させてもらい、目の不自由な女性と一緒に歩かせてもらいました。一緒に歩きながら、目の前の状況を言葉で伝えあげたいのですが、それが意外と難しかったのです。自分が今まさに実際に見ているものの、それを言葉ではうまく表現できないことに衝撃でした。私の語彙力の少なさもあると思いますが、目の見えない人の立場で見ることがないからだろうと思いました。いろんな立場の人を意識しながら物事を見ていくと、いろんな発見がありそうです。

一週間というあっという間に終わってしまった研修でしたが、普段できない経験をさせていただき、「プロジェクトゆうあい」の皆様には大変感謝しております。本当にありがとうございました。

【その他特記事項】

